

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	54 人	算数	54 人	理科	54 人
第5学年	国語	55 人	算数	55 人	理科	55 人

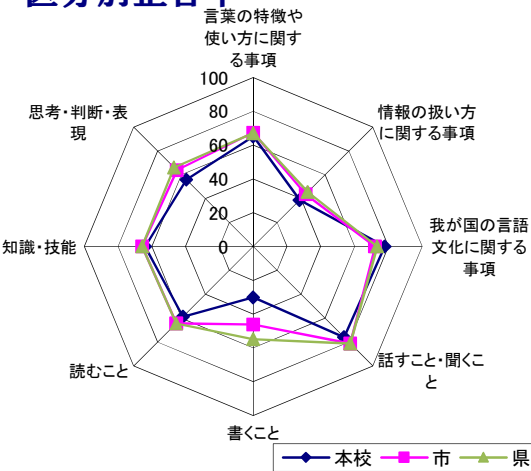
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.2	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	38.9	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	77.8	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	75.9	81.2	81.2
	書くこと	30.1	46.2	54.9
	読むこと	58.8	64.3	64.5
観点	知識・技能	64.0	65.7	65.7
	思考・判断・表現	55.9	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

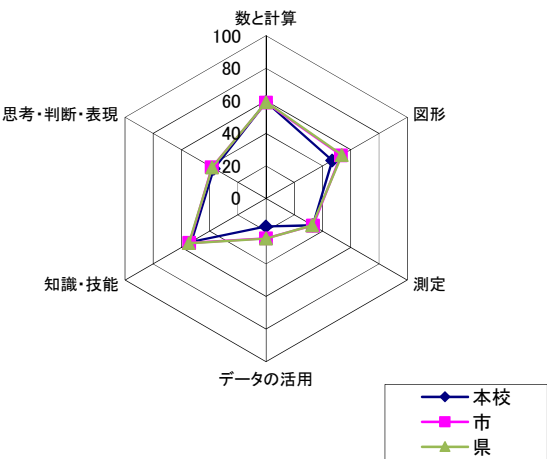
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●漢字の読み書きの問題、主語と述語の関係を問う問題の正答率が低い。 ●ローマ字の読み方に課題が残る。	・今後も、漢字の読み書きや、主語・述語の関係等の基礎・基本を学習を充実させ、高学年に向けて、書くことの基礎・基本を身に付けられるようにする。 ・ローマ字については、4年生でも学習する内容のため、3年生での学習の復習を取り入れながら、またパソコンのタイピングとつなげて指導を工夫する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●例文に用いられた言葉の意味を選ぶことに課題が残る。	・言葉の意味については、辞書の活用を習慣付けるだけでなく、文章全体を捉え、前後の文脈からも意味を推測できるように、文章を要約する学習機会を増やすなど、指導の工夫を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○漢字のへんとつくりを正しく組み合わせる問題の正答率が高い。	・今後も、漢字の学習において、部首に着目して漢字の分類をしたり、漢字の成り立ちに触れるようにしたりするなど、漢字の学習方法の工夫を行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●話し手の話の主旨や話し方の工夫を捉える問題の正答率が低い。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げて話す問題の正答率が低い。	・話を聞く際の適切なメモの取り方について、箇条書きやポイントとなる言葉を聞き取って書くようにするなど、相手の話の概要を聞き取れるようにするために指導を工夫する。 ・朝の会等でのスピーチ活動では、国語の学習とのつながりを意識し、起承転結など話型を意識して話すようにするなど、指導を工夫する。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●自分の考えを書く問題の正答率が低い。また、無回答率が高い。	・国語の学習にとどまらず、行事の振り返りなどの短作文を通して文章を書く機会を確保し、文章を書くことへの苦手意識の払拭につなげる。 ・文章の長さや段落数を指定するなど、条件付き作文の活動を行う。 ・自分の考えを理由を明確にしたり、根拠となる事例を挙げたりすることを意識した文章を書く機会を設ける。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○叙述を基に捉える問題や、段落の内容を捉える問題の正答率が高い。 ●中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。	・文章全体を読み、話題の中心を捉えたり、要約できるようにしたりする活動を行う。 ・単元のまとめの際には、全体を読み通し、自分の言葉でまとめができるような指導を工夫する。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.3	58.9	59.2
	図形	46.9	53.0	53.7
	測定	32.9	33.1	32.6
	データの活用	17.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	37.0	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

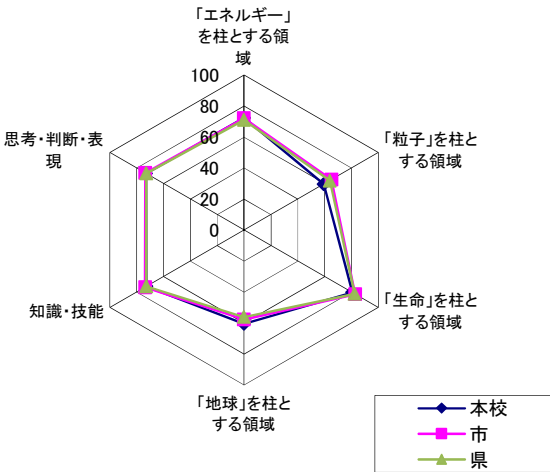
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○整数同士のかけ算やわり算、整数と小数の混合計算などの基本的な計算を行う問題の正答率がやや高い。 ○式の意味を言葉で説明したものを選ぶ問題の正答率が高い。 ●大きな数を表す問題の正答率が低い。100万や1000万を超える数値を表現することに課題が見られる。 ●数量関係や計算の仕方を説明する問題の正答率が低い。	・授業や朝の学習、宿題などを通して繰り返し計算問題に取り組んできている成果と考えられる。今後も継続して計算練習を行うことで、正確かつ確実に基礎・基本の計算力の向上を図る。 ・大きな数については、位取り表を用いながら問題に取り組むようにすることで、単位を意識し数の理解につなげていきたい。また、日本や世界の人口などの身の回りの大きな数を話題にするなど、大きさを実感できるような指導の工夫を行う。 ・計算の仕方を考えることに関して、これまでの学習を基にして計算の仕方を自分で考え、児童自身が考えた計算の方法を議論する活動などを通して、説明する力の向上を図る。
図形	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●円の性質を利用して正三角形を作図する問題の正答率が低い。複数の図形の性質を組み合わせる考えることに課題が見られる。	・朝の学習や宿題等で3・4年生の学習内容を扱い復習することで、図形の性質の着実な定着を図る。また、複数の図形の性質を組み合わせる学習を繰り返し行うことで、図形の問題への苦手意識や抵抗感をなくしていきたい。 ・どのようにして回答を導き出したのか互いに説明をする時間を授業内で設けることで、図形問題への理解を深められるような指導をしていきたい。
測定	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○時間と時刻を理解し、時間を求める問題の正答率がやや高い。 ●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題の正答率が低い。	・毎日の生活の中で、時刻を求めたり時間の経過を話題にしたりして、時間の経過を実感できるような取り組みを継続的に取り入れ、理解を深めていきたい。 ・算数の学習のみならず、理科や家庭科などはかりを実際に使用する場面において目盛りの読み方の指導をするなど、日常生活を通して指導を行い、児童の理解を図る。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●棒グラフを読み取り、2番目に多い落とし物の種類を答える問題や、示されてた値をグラフから読み取る問題の正答率が低い。グラフや数値が何を表しているのか考えることに課題が見られる。	・グラフの読み取りの際には、目盛りや数の推移に着目しながらグラフや数値が何を表しているのか考えるようにすることで、棒グラフや円グラフ等、様々なグラフを確実に読み取れるようにする。 ・算数のみならず、社会など他教科においてもグラフを用いて自分の考えを説明する活動の充実を図ることで、グラフの特徴や利点の理解につなげる。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	59.3	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	80.7	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	60.5	57.7	56.2
観点	知識・技能	72.8	73.8	72.8
	思考・判断・表現	73.0	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○実験結果から、風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることについて考察する問題の正答率が高い。 ●電気を通すものを答える問題の正答率が低い。電気を通すものの性質についての理解に課題が見られる。	・風の強さと車の進んだ距離を関係付けて捉えるなど、実験結果の着目すべき点を意識して考察してきた成果と考えられる。今後も実験結果が何を表しているのか考える学習を通して、実験結果を基に考察できるようにしていく。 ・金属は電気を通すという知識の定着にとどまらず、身の回りの物の材質に着目して電気を通すのか否か考えるなど、学習した内容を日常生活に生かす活動の充実を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●同じ体積でものの種類によって重さが違うことを問う問題の正答率が低い。同じ体積でも種類によって重さが違うという知識の定着に課題が残る。	・同じ体積で材質の異なるものについて、実際に手で持ったり重さを量ったりするなどの学習を多く設定し、材質による重さの違いを実感できるようにする。 ・材質と重さに着目して考察できるように、実験結果をまとめる際には表を用いて分かりやすく整理するなど、考察を促す手立ての充実を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●植物のめばえについて問う問題の正答率が低い。植物の発芽後に子葉が出てくるといふ事象の理解に課題が残る。 ●ダンゴムシが昆虫の仲間ではないことを説明する問題の正答率が低い。昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いを捉え、説明することに課題が残る。	・植物の観察記録について、植物の成長と時間や季節の経過とを関係付けながら捉えることで、植物の成長についての理解を図る。 ・身の回りの様々な生き物の観察を行い昆虫の体のつくりを基に分類するなど、視点を明確にした観察を行ったり、観察結果や考察を自分の言葉で説明したする活動の充実を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○方位磁針の正しい使い方や太陽が動く方位を問う問題の正答率が高い。 ●影のできる向きと影踏みで逃げる方向について問う問題の正答率が低い。影のできる方向を理解し、影踏みの動きと結び付けて考えることに課題が見られる。	・理科だけにとどまらず、社会や日常生活全般を通して、学習した内容との関連を図ってきた成果と考えられる。特に、理科は身の回りの自然事象を扱う教科でもあるので、引き続き、学習したこと日常生活との結び付けを児童が意識できるようにしていきたい。 ・実際に影踏みをして遊ぶなど、導入やまとめの段階で自然体験や物作りの活動を取り入れ、学習した知識を生活場面に広く活用できる場の充実を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した児童の割合が高い。日々の授業において、自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を意識的に取り入れている成果であると考えられる。

○「だれに対しても、思いやりの心をもって接している。」や「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と回答した児童の割合が高い。今後も、道徳や学級活動などの内容の充実を図り、児童同士のよりよい人間関係の構築に努めていきたい。

○「授業を集中して受けている。」と回答した児童の割合は9割を超えており、落ち着いて学習に取り組んでいると考えられる。引き続き、授業作りの工夫を重ね、意欲的に学ぶ児童の育成を目指していきたい。

●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」と回答した児童の割合が低い。学校行事や係活動に対する振返りの内容を工夫するなど、自分たちの成長を自ら実感できる場を設定する。また、学級活動等を通して、自分たちの課題を出し合い自分たちで解決していく経験を積むことで、責任をもって主体的に取り組む児童の育成を目指す。

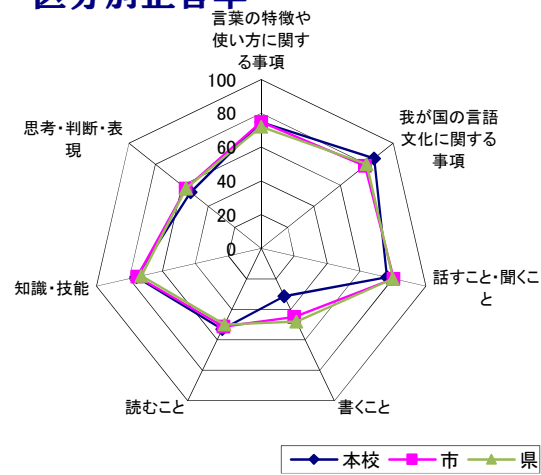
●「1か月に、何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」の設問について2冊より少ないと答えた児童が3割程度おり、本を読んでいる児童の割合が低い。図書室を活用し、司書教諭による本の紹介などを行い、児童が進んで読書を楽しめるように努めていきたい。

●「普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、ゲームをしますか。」の設問について、3時間以上と答えた児童が3割程度おり、使用時間が長い。過度の使用は健康被害をもたらすことなどを授業で取り上げたり、保護者懇談等での啓発を通して家庭と連携を図ったりしながら、ゲームやインターネットの適切な使用につなげたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.7	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.5	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	76.4	80.4	80.0
	書くこと	31.4	45.1	48.0
	読むこと	53.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	75.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	53.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

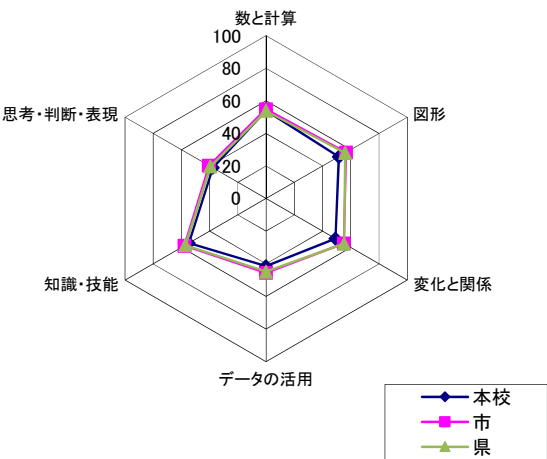
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであり、県の平均を上回っている。 ○漢字の書きについては市の正答率を上回っているものが多い。 ●漢字の読みについては市の正答率を3問全て下回った。 ●連用修飾語の修飾・被修飾の関係を捉えられているかをみる問題の正答率が特に低かった。	・今後も漢字の書きの練習には力を入れていくとともに、読みの練習も意図的に行っていくようにする。 ・修飾語の中でも、特に連用修飾語に焦点を当てて数多く練習していけるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	今年度は出題されませんでした。	・授業中や家庭学習で漢字辞典や国語辞典を使う活動を意図的に設け、辞典を使うことにより慣れていけるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問いでは、市の正答率より大きく上回った。	・この項目に対しては1問のみの出題であり、定着しているかの判断は難しいところであるので、慣用句やことわざに触れる機会は今後も意図的に多く設けていくようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○発言を基に、司会者として適した言い回しを完成させる問いでは、市の正答率を若干上回った。 ●話し手同士の工夫の共通点を説明した文を選ぶ問いでは、市の正答率より下回った。	・話すこと・聞くことの問題を解くにあたって、問題文を聞きながらメモを取ることはできているようだが、そのメモを基に類推していくことに難のある児童が多くみられるので、克服していくために、国語だけに限らず話し合いをする機会を意図的に設け多く体験させていくようにする。 ・語彙を増やし、話すことや書くことに適切に使っていけるよう課題等を工夫して出していく。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●作文を書くという課題や記述式の解答を求める問いに対して、どの設問も市の正答率より大きく下回っている。また、無答率が市の平均を大きく上回っている。	・作文に関しては、朝の学習や家庭学習で書く経験を多く設け、児童がたくさん文章を書く場を作り出すとともに苦手意識を少しでも払拭できるようにする。 ・苦手意識の払拭のために、スモールステップ的な課題を与えていくとともに、低学年のうちから書くことを多く経験させるように配慮していく。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉えたり、登場人物の性格を想像したりする問いでは、市の正答率を上回った。 ●説明的な文章において、段落相互の関係を捉えられているかをみる問いでは、市の正答率を下回った。	・読書を推奨し、文章を読む機会を多く設けていくとともに文学に限らずいろいろなジャンルの本に触れられるよう助言していく。 ・学力調査において最後の方の問題になるほど無答率が高くなっているので、文章を早く読むことができるような練習を取り入れていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.0	54.9	53.7
	図形	51.5	56.6	56.1
	変化と関係	49.1	55.1	55.2
	データの活用	41.5	45.5	44.8
観点	知識・技能	54.7	57.8	57.2
	思考・判断・表現	37.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

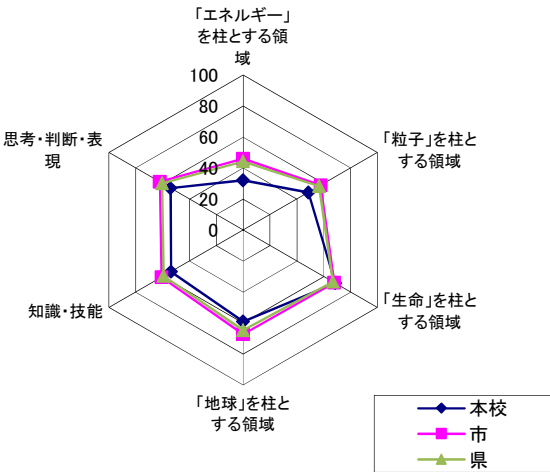
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○大きな数や、小数の大きさを求める設問の正答率が市や県の平均を上回っている。 ●数直線の数を分数で表す設問の正答率が低い。また、小数と整数のかけ算やわり算の正答率もやや低い。計算の仕方の理解に課題が見られる。	・位取り表を用いた指導が数の仕組みについての理解につながったと考えられる。今後も必要に応じて取り入れていく。 ・朝の学習などを通して、分数の問題に繰り返し取り組むようにし、習熟を図る。 ・整数、小数、分数における四則計算について、計算のきまりを再確認し、確実に正しく答えを求められるように朝の学習や宿題などの充実を図る。
図形	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○平行四辺形を作図する設問の正答率が高い。 ●立体の辺と面の位置関係や三角定規の角度の理解についての設問の正答率が低い。	・図形の学習については、三角定規の角度を再確認し、三角定規の角度をもとにして身の回りの角度を予測したり調べたりする活動などを通して、角の大きさの量感を育てるようにする。 ・展開図や見取り図を取り入れた指導を行い、立体を平面で捉えたり、垂直・平行などの位置関係について、図形を正しくイメージできるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について表から読み取る設問、割合の仕組みについての設問の正答率が低い。伴って変わる2つの数量の関係の理解に課題が見られる。	・必要な事がらを整理しながら読むことで問題文の意味を理解できるようにする。また、算数の見方・考え方を働かせる授業づくりを工夫することで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取り、立式できるようにする。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○二次元の表の意味を理解し、傾向を読み取る設問の正答率が市の平均とほぼ同じである。 ●折れ線グラフから必要なことや変化の様子を読み取る設問の正答率が低い。グラフを読み取り変化について説明することに課題が見られる。	・算数だけでなく他教科においても、複数の折れ線グラフや二次元表を読み取ったり変化の様子を説明する機会を増やし、グラフや表から読み取る力を高めていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	32.1	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	48.6	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.7	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	59.0	67.2	64.6
観点	知識・技能	53.8	60.8	59.2
	思考・判断・表現	54.1	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●並列つなぎの名称を答える問題、簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える問題、並列つなぎと乾電池1個に流れる電流が同じであることを答える問題の正答率が低い。電気が流れる回路の理解に課題があると思われる。	・乾電池のつなぎ方と電流の大きさを関連付けて考え、回路と電流の大きさの理解を図れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○とじこめた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けて考える問題の正答率が高い。実験の際に見通しをもって実験に取り組んできた成果であると考えられる。 ●湯気と水蒸気の違いについて答える問題、水を温める実験の結果からあわの正体を推測する問題の正答率が低い。実験の結果から考察することに課題が見られる。	・実験の際に見通しをもって実験に取り組んできたり、学習した知識を使って身の回りの現象を捉えたりする活動を多く設定することで、学習と日常生活との関連を図り、理解を深めるようにする。 ・学習問題に対する予想や仮説を立てる時間を十分に確保し、実験の目的を明らかにしてから実験するようにすることで、考察の視点を明らかにするなど、指導の改善を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○季節ごとの動物の活動について答える問題、骨と関節の名称を答える問題の正答率が高い。 ●植物の成長の様子をグラフから読み取る問題の正答率が低い。植物の成長に関する理解に課題があると思われる。	・ヒトの体の仕組みなど、実験で確認することが難しい分野について、自分の腕を触って感覚をつかんだり、模型を使って関節の動きを視覚的に捉える活動を重視していく。 ・身の回りの植物を観察する際には、観察の対象の植物だけでなく、気温や季節などの視点を含めて総合的に捉えながら観察するようにすることで、理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●星の色に違いがあることを問う問題、星の動きと星座の並び方を問う問題の正答率が低い。 ●水を流す実験の結果から水の流れる向きを読み取る問題の正答率が低い。実験の結果から考察することに課題が見られる。	・粒子の領域と同様、考察することに課題があると考えられるので、考察の場面の指導の改善を図る。 ・星の観察については、明るさや場所など観察時の条件等で難しい場合も考えられるので、インターネットの画像や動画なども活用し、理解が深まるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は9割を超えており、家庭での学習習慣が身に付いている児童が多い。

○「勉強していて、『ふしぎだな』『なぜだろう』と覚えることがある。」と回答した児童の割合は8割を超えている。児童が疑問をもてるように授業の導入や振り返りの内容を工夫してきた成果であると考えられる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」と回答した児童の割合は7割を超えている。学校図書館司書やICT支援員と連携し、学習内容に関連する図書資料やWebサイト等を授業の中で活用した成果であると考えられる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童の割合は8割を超えている。授業の中でペアや小グループで話し合う活動を積極的に取り入れてきた成果であると考えられる。また、自分の意見をもって話し合いに参加できるように、学習課題に対して自分で考える時間を確保するように努めてきた。引き続き、自分の考えをもとに友達と話し合うことを通して考えを深める学習活動に取り組んでいきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合が低い。家庭学習の1つである宿題の主たる内容が授業の復習につながっていることを児童が意識していないことも考えられる。宿題の内容を工夫したり自主学習への取り組み方などを啓発していくことで意識化を図りたい。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」と回答した児童の割合が低く、十分とはいえない状況である。テスト直しを授業中に取り組むだけでなく、時間をおいて家庭でも繰り返し復習することの意義やよさを児童に伝えるなどして、自主的に家庭学習を通して取り組めるよう指導に努めていきたい。

●「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。」と回答した児童の割合が低い。困難なことでもやり遂げたときの達成感や諦めずに行うことの大切さについて児童が考える機会を設けたり、努力している姿を認め励ましたりするなど指導の工夫を図りたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びの充実	・視点を明確にした話し合い活動を取り入れるなど、話し合い活動の質の向上を図る。 ・ICTを含めたツールなどを活用しながら、互いの考えを共有し、学び合いを通して考えを深められるようにする。	・本やインターネットなどを利用して学習に関する情報を得たり、進んで話し合いに参加したりしていると感じている児童が増えている。一方で、それらによって考えを深めたり広げたりする段階までは達していない。
基礎的な知識・技能の確実な定着	・朝の学習にT・T体制を取り入れたり、習熟別プリントに取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・家庭学習強化月間を取り入れ、学習習慣の定着を図る。	・漢字の読み書きや基本的な計算について、市や県の平均を上回るものが増えてきているが、下回るものもあり領域による差が見られる。 ・家庭学習において、宿題についての意識は高いが、自主的に課題を見付け復習に取り組むことについては意識が低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを述べたり、(そう考えた)理由を説明したりする問題の無回答率が高い。	文章を書く機会を積極的に設け、文を書くことへの苦手意識や抵抗感を払拭する。	・授業の中で、自力解決の時間を十分確保し個に応じた支援を行い、効果的に話し合い活動ができるようにする。また、なぜそう考えたのか問い返すなどしながら、理由を説明することを意識させていく。 ・朝の学習や家庭学習において、文字数や段落数など条件を工夫しながらスモールステップ的に文章を書く課題を多く設定する。
領域による基礎・基本の定着に差が見られる。	児童に合った教材を精選し、苦手分野の向上を目指す。	・引き続き、チームティーチング体制を朝の学習に取り入れ、児童の課題を見付けやすくする。また、学習プリントなどの内容を見直し、児童の弱点克服に合う課題を提示する。